

令和5年度 第3回島田市文化芸術推進協議会 議事概要

1 日時 令和6年2月11日(日) 午後1時30分～午後4時10分

2 場所 (視察) 第25回夢づくり展
(協議) 金谷生きがいセンター夢づくり会館 団らんの部屋

3 出席者

(1) 委員 松本会長、森澤副会長、高橋委員、沼田委員、榛葉委員、岡村委員、松永委員

(2) 事務局 観光文化部文化振興課 佐藤課長、杉山係長、三宅主事

(3) 傍聴者 0名

4 概要

(1) 視察 第25回夢づくり展

(2) 議事

会長	議事の1「意見交換 市民の活動発表の場について」、事務局に趣旨の説明を求めらる。
事務局	文化活動において、活動発表の場は重要。このため、市では市民文化祭を重要な施策と位置づけ、毎年開催している。 毎年より充実した展示会にするために、様々な努力をしているが、中にある人間からは見えにくいものもある。 委員から感想やアドバイスなどをいただき、今後の運営に生かしたい。
委員	川根地区の文化祭に、工業高校の生徒が音響、ステージ操作で参加した。 例年業者に委託するところ、館長が地元の学生を使いたいということで声をかけてくれ、実現した。スモークなどの演出も入れ、出演者に喜ばれた。
委員	グランシップでも、高校生がプロの舞台スタッフと一緒に活動する機会を設けている。 今日の展示会でも子どもたちがプラモデルの指導を受けていた。この子どもたちがいずれ指導者として戻ってくるような流れが生まれる。 陶芸もワークショップなどをやってみたら。展示方法を考えて新しい世代を取り込むとよい。 子どもの作品からレベルの高い作品まで、世代間を超えた展示が入り混じっ

委員	<p>ていた。交流になる。</p> <p>子どもの作品があると家族で見に来る。ほかの作品も自然に見て、新しい発見がある。</p> <p>地域の高校に全国大会に出るレベルの部があり、それを下の世代の子どもたちが見る場があって、その道に進む子がいる。</p> <p>書き初めは写真での展示だったが、やはり実物がよい。</p>
委員	<p>市内で開催されている「無人駅の芸術祭」は、過疎という社会問題にアートを持ち込み、資産的価値を付与した。顔型の作品は、回数を重ね、過去の作品の中に亡き人の顔があった。地域の記憶が積み重なっていく重みを感じた。</p> <p>夢づくり展では、プラモデル、ミニ四駆が作品として展示されていた。新しい価値を持ち込んでいる。焦点の当て方と感じた。</p>
委員	<p>市民文化祭は高齢化等により出品が減りつつある。発表の方法はいろいろあり、集うという形以外もありうるのではないかと考えている。</p> <p>ステージ発表では、現在は同じジャンルでまとめているが、異なるものを組み合わせてみたら、化学変化が起こらないか、とか。</p>
委員	<p>異なるジャンルのコラボレーションというところでは、大井川鉄道の駅舎の絵があったが、そこに同じ風景を撮影した写真を並べるなども面白い。</p> <p>小学校、高校の写真部にも出品を呼び掛けている。</p> <p>今回初めて地域の芸術家に呼びかけ、3人の匠の展示を行った。</p> <p>また、姉妹都市である富山県氷見市への義援金募金と絡めて一部作品の販売を行っている。</p>
会長	<p>島田市の課題として、アートマネージャーがいないというところがある。芸術文化を繋ぐ人材への支援や養成の取り組み。</p> <p>理念—政策—施策—事業とある中で、事業の話になりがちであるが、文化芸術推進協議会は政策について考える場であることを今一度確認したい。</p>
会長	<p>(2)「文化芸術推進計画 中間見直しの報告」について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>計画は市の行動計画でもあることから、中間見直しは、計画書に掲載されている市の事業を、現在の内容に更新することとする。</p>

	<p>修正内容は資料 1-1 のとおり。新たに 8 事業を掲載し、22 事業を終了等により削除し、その他、内容の修正を行った。</p>
委員	<p>なぜ新病院になって絵画展示がなくなったのか。ホスピタルアートは時代の潮流である。入院もある病院で、QOL の向上に欠かせない。</p>
委員	<p>病院の関係で、今年度高校生が開発した医療機器が受賞したため、新病院での展示を打診したが、実現しなかった。</p>
委員	<p>患者さんの精神面でのケアに写真や絵画などのアートは有効。この委員会として市に提言できないか。</p>
事務局	<p>病院の状況を確認する。</p> <p>※追記</p> <p>新設の市立総合医療センターでは、市民作品を展示するスペースはなくなったが、患者や医療従事者の心を明るくするためのアートの重要性を意識し、各所に取り入れていた。後日出席委員にメールにてその旨を報告。</p>
委員	<p>公私で関わった事業がいくつか、知らない間になくなっていて驚いた。モンゴルへのランドセル事業はなぜなくなってしまったのか。子どもにも人気があり、残念。オリンピックの遺産として重要では。</p>
事務局	<p>元々5年間を予定していた。現実的には、中心で担ってきた市民団体の高齢化により、継続が困難になった。</p>
委員	<p>高齢化は各団体で問題。関係団体に情報提供し、連携するなどの支援をできないか。</p> <p>事業の加除をするだけでなく、協議会から事前にアドバイス等すべきでは。</p>
委員	<p>中間見直しにかかる決定のプロセスがあいまい。結果のみが掲載されるのか。</p>
事務局	<p>前の計画と修正経過の入った資料もホームページに掲載する。</p>
会長	<p>(3)「評価対象事業の選定」について、事務局に説明を求める。</p>
事務局	<p>次回の協議会では、令和5年度事業の実績報告と評価を行う。</p>

	<p>評価方法は、全事業の実績評価と、抽出した事業について詳細な評価を行う。 資料 2-1 の事業を詳細な評価シートを作成する事業として提案する。 ご意見があれば伺いたい。</p>
委員	<p>抽出事業が文化振興課と博物館課に偏っている。他の課の事業を加えてほしい。</p>
事務局	<p>具体的に取り上げたい事業はあるか。</p>
会長	<p>そういうことではなく、計画は全庁的に取り組むべきということ。 どんな部門でも文化芸術が関係し、有効である。ほかの課もこの計画の推進に取り組むことで精神を共有できる。</p>
事務局	<p>取り上げる事業について再度検討する。</p>

・閉会